デジタルアーカイブ特講

第１４講 「デジタルアーカイブを活用した地域課題の解決手法」

久世均
（岐阜女子大学・教授）

「デジタルアーカイブを活用した地域課題の解決手法」

【目　的】

知識基盤社会におけるデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという本学独自の「知の増殖型サイクル」の手法により、これらの地域課題に実践的な解決方法を確立するために、「知の増殖型サイクル」をデジタルアーカイブに応用して飛騨高山の匠の技に関する総合的な地域文化の創造を進めるデジタルアーカイブの新たな評価指標ついて考える。

【学習到達目標】

a.　「知の増殖型サイクル」の手法による地域課題に実践的な解決方法を確立することについて説明できる。

飛騨高山匠の技とは

- 古代、律令制度下において、匠丁（木工技術者）として徴用され、多くの神社仏閣の建立にかかわる。

- 平城京・平安京の造営においても活躍したと伝えられる。

飛騨高山匠の技の伝承

- 一位一刀彫

- 飛騨春慶
  （木地師・塗師）

- 飛騨の木工家具
  （曲げ、挽き）

研究の目的

- 飛騨高山地域が抱える課題と研究の目的

- **地域課題**
- 伝統文化産業（一位一刀彫・飛騨春慶塗）における後継者不足
- 伝統文化産業の振興と海外への展開不足
- 匠の技を通じた地域特色の復活

- **目　的**
- 上記地域課題の解決手法の提案

→**「知の増殖型サイクル」**

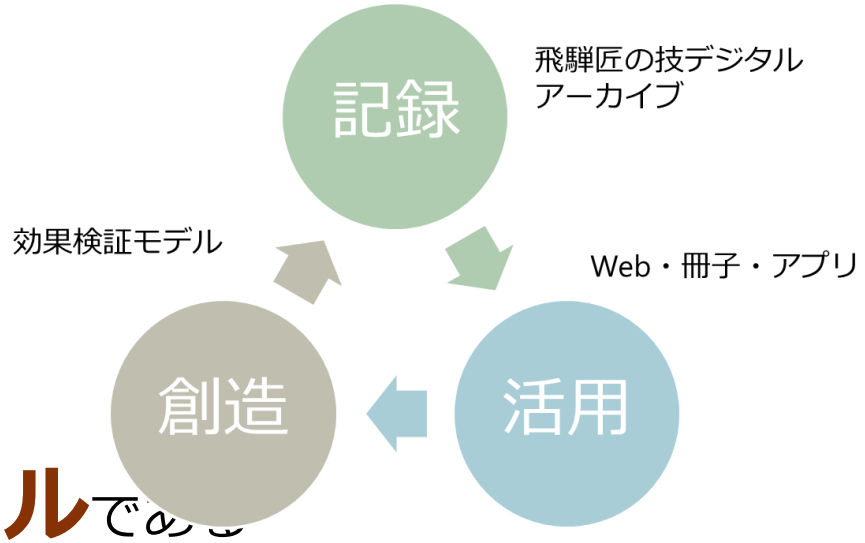
「知の増殖型サイクル」への適応

- **知的創造サイクル**とは
- **記録→活用→創造**　の循環サイクルのこと

⇒収集、保存した情報を活用することで
新たな情報を創造する

→この知的創造サイクルを、
デジタルアーカイブの
捉えなおしたものが

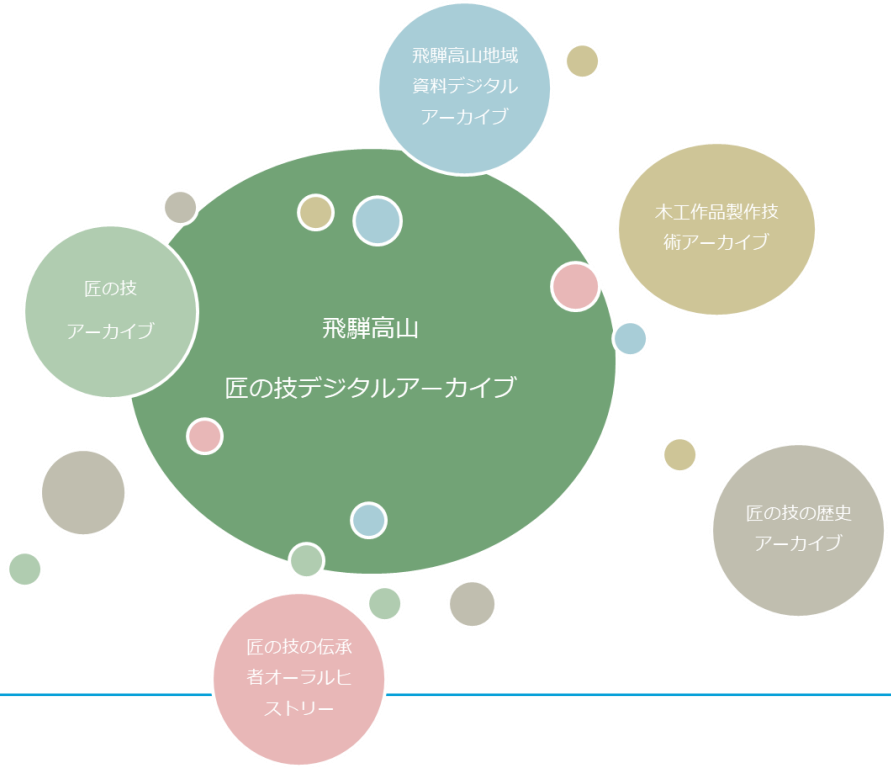
知の増殖型サイクルである



「知の増殖型サイクル」への適応

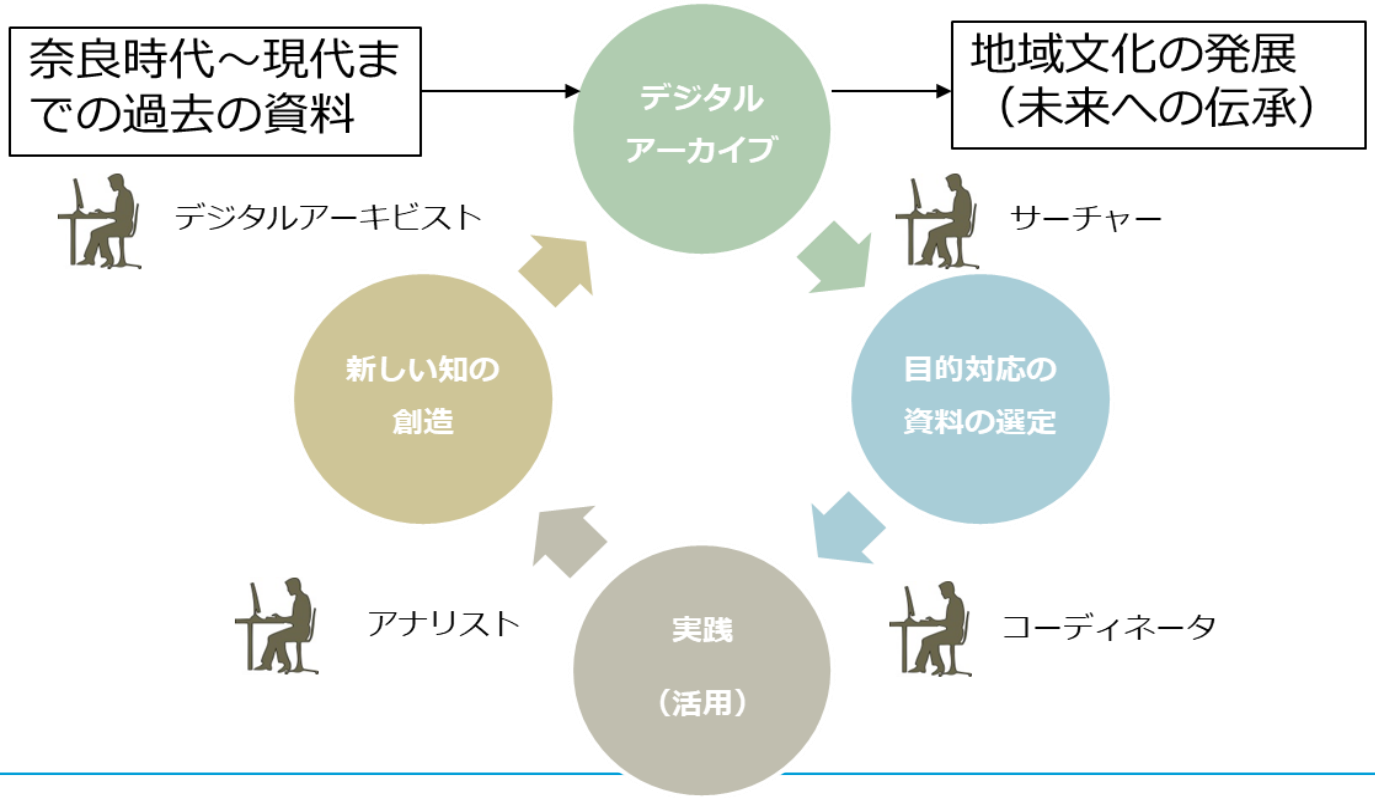
- 飛騨高山匠の技デジタルアーカイブの構成

- ①飛騨高山地域資料
- ②匠の技
- ③匠の技伝承者オーラルヒストリー
- ④匠の歴史
- ⑤木工製品制作技術



「知の増殖型サイクル」への適応

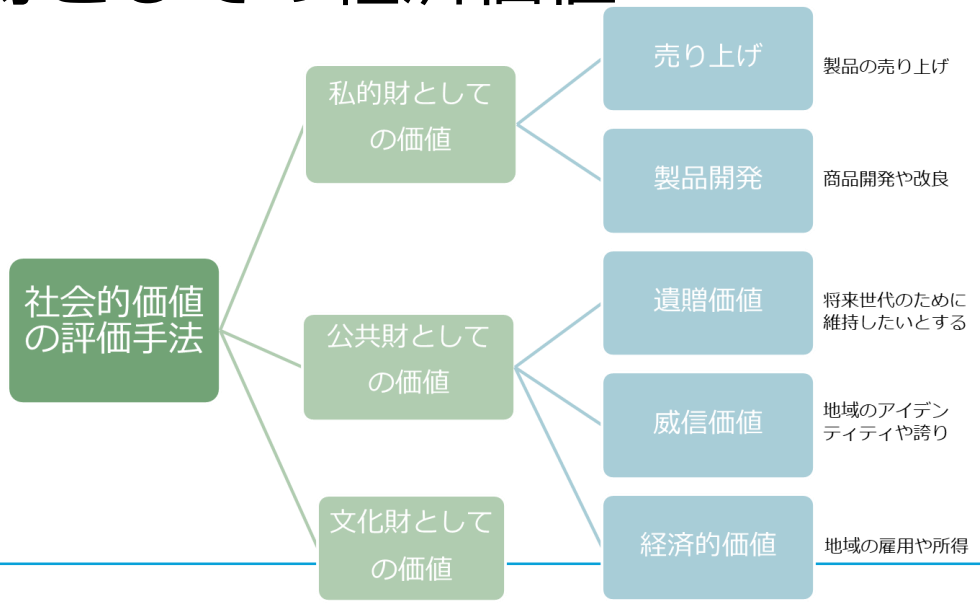
- 飛騨高山匠の技デジタルアーカイブを「**知の増殖型サイクル**」として適応する



効果測定モデルと新しい評価指標

- 社会的価値の評価手法には **私的財** としての価値と **公共財** としての価値がある
- 伝統文化、伝統技術　→　**公共財** としての価値

・将来世代のために維持したい遺贈価値
・地域のアイデンティティや誇りとしての威信価値
・地域の雇用の創出や所得としての経済価値



効果測定モデルと新しい評価指標

- 新たな指標の作成
- 飛騨高山匠の技デジタルアーカイブで調査した建造物、伝統工芸等について
- **認知度(Awareness),知名度(Popularity)**についてのアンケートを実施

- 調査対象を「関連情報」アンケート対象者を「地域住民」として指標を作成し注意係数として算出する

〈住民Ａの注意係数の求め方〉

①住民ＡのＳラインより左にある「０」を見つけ、それらの問題の認知度の和を求める。
②住民ＡのＳラインより右にある「１」を見つけ、それらの問題の認知度の和を求める。
③住民Ａの認知度をｐ点とするとき、認知度欄の左からｐ個までの認知度の和を求める。

（住民Ａの注意係数）＝①－②/(③－(住民Aの認知度)×(全住民の得点の合計))

→注意係数として出したものが広報をしていく上での問題点となっているのでは？

効果測定モデルと新しい評価指標

- **住民R（Resident）-地域資源L（Local Resource）認知度診断表（R-L表）の開発**

- アンケートのｎ個の地域資源の項目一つずつを評価し、よく知っているには１を、知らないには０を与えて得たN人の地域住民の項目得点を集めてN(人)×ｎ(項目)の項目得点表を作成する。
- これらのアンケートを認知度順、知名度順の並び替える。
- 地域住民について、認知度表の左からそれぞれの得点のところに区切り線を入れ、全ての区切り線を点線で結ぶと認知度の分布曲線が表される。(L曲線)
- 地域資源について、知名度の上からそれぞれの得点のところに区切り線を入れ、全ての区切り線を点線で結ぶと知名度の分布曲線が表される。（R曲線）
- その結果次のことが分かる

【課題】認知度が高い住民が知らないのに、認知度が低い住民が知っている。
【課題】知名度が高いのに、知らない住民がいる

「注意係数」

効果測定モデルと新しい評価指標

【課題】認知度が高い住民が知らないのに、認知度が低い住民が知っている。
【課題】知名度が高いのに、知らない住民がいる

➡ これを数値で表したものが「**注意係数**」

	地域資源6	地域資源12	地域資源 3	地域資源9	地域資源1	地域資源13	地域資源14	地域資源4	地域資源11	地域資源 1 5	地域資源2	地域資源8	地域資源5	地域資源10	地域資源7	合計	注意係数
住人A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15	0.00
住人B	1	1	1	0	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	12	0.13
住人C	1	1	1	0	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0	10	0.08
住人H	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	10	0.01
住人E	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	10	0.03
住人I	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	8	0.11
住人D	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	8	0.08
住人G	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	8	0.08
住人J	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	8	0.05
住人K	1	1	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	7	0.15
住人F	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0.09
	11	11	9	9	8	8	8	6	6	6	5	5	4	3	2	9.18	6.73
注意係数	0.000	0.000	0.000	0.120	0.039	0.000	0.013	0.033	0.147	0.049	0.000	0.019	0.067	0.057	0.000		

R曲線

L曲線

効果測定モデルと新しい評価指標

- アンケートから得られた二つの統計（R曲線、L曲線）を表して世代ごとにおける認知度の水準や傾向をもとに、今後**飛騨高山の匠の技を継承していくための広報、展開の方法を一項目ごとに検証、提案するための指標**とする。

- **差異係数**

  R曲線とL曲線の乖離の状態を表す。

  → 広報における構造化の問題

  → 伝統文化に関する知名度と認知度の不整合

効果測定モデルと新しい評価指標

差異係数

R曲線とL曲線の乖離の状態を表す。

→　広報における構造化の問題

→　伝統文化に関する知名度と認知度の不整合

	地域資源6	地域資源１２	地域資源３	地域資源9	地域資源1	地域資源13	地域資源14	地域資源4	地域資源11	地域資源１５	地域資源2	地域資源8	地域資源5	地域資源10	地域資源7	合計	注意係数
住人A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15	0.00
住人B	1	1	1	0	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	12	0.13
住人C	1	1	1	0	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0	10	0.08
住人H	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	10	0.01
住人E	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	10	0.03
住人I	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	8	0.11
住人D	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	8	0.08
住人G	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	8	0.08
住人J	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	8	0.05
住人K	1	1	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	7	0.15
住人F	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0.09
	11	11	9	9	8	8	8	6	6	6	5	5	4	3	2	9.18	6.73
注意係数	0.000	0.000	0.000	0.120	0.039	0.000	0.013	0.033	0.147	0.049	0.000	0.019	0.067	0.057	0.000		

R曲線

L曲線

私立大学研究ブランディング事業

- 本学では、「**知の増殖型サイクル**」を可能にするデジタルアーカイブの試行に成功しており、また、今回私立大学研究ブランディング事業に**「地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業」**で採択され、5年間継続しての研究を予定している。

研究課題

住民R（Resident）-地域資源L（Local Resources）認知度診断表から何がわかるか論述してみなさい。

デジタルアーカイブ特講

第１４講 「デジタルアーカイブを活用した地域課題の解決手法」

久世均
（岐阜女子大学・教授）